

2019年度 事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

概 要

2019年度は、しがNPOセンター設立後新たな一歩を踏み出す年となった。これまで大きな柱として取り組んできたNPOの人材育成プログラムに加え、大津びわこ競輪場跡地に大和リースが手がけるショッピングモール「ランチ大津京」内で「まちづくりスポット大津」を展開することとなり、専属スタッフを雇用して事業を始めた。また、人材育成プロジェクトである「NPO人育ちプロジェクト」の2年目となり、諸事情により当初メンバーが減ったものの、それぞれが抱える課題を可視化することで成果を得ることができた。団体の代表者からの評価も高く、「しっかり育ってくれた」「安心して任せられるようになってきた」との言葉があった。

2019年は台風15号（房総半島台風）、19号（東日本台風）が大きな被害を引き起こしたが、災害支援として募金活動以外の具体的な支援活動に取り組めなかった。しかしながら、東日本台風の被害状況等について、当初予定に入れていなかった災害支援市民ネットワークしがの研究会で取り上げるなど、関心のある方々への情報提供や意見交換の場を提供した。

市民活動支援のベーシックな活動である相談事業は重要な位置付けとなっており、設立当初から多岐にわたる内容の相談に応じてきた。2017年度までは有料相談のみの件数をカウントしていたが、助成金事務局を担う中で相談対応が多くなってきたことを踏まえ、2018年度は期中から有料だけではない相談件数のカウントを始めた。2019年度も、助成金事務局以外でも数多くの相談に対応してきているが、メンバーがそれぞれ相談に対応しているケースもあり、その実態を可視化できるように記録を積み重ねる必要がある。

草津市の協働コーディネート業務では、第2次協働推進計画の策定、総合交流センターへの運営管理検討に加え、コミュニティ事業団を通じて学区まちづくり計画の見直し支援を行った。

企業団体との協働関係では、平和堂財団の環境保全助成金事業「夏原グラント」、生活協同組合コープしがとの「できるコトづくり制度」に加え、大和リースとの協働事業である「まちづくりスポット大津」の開設準備・オープン後の運営を行なった。

「夏原グラント」は、2012年度から助成が始まり、2019年度までで助成を受けたのは延べ373団体、助成金総額は106,791,000円となっており、滋賀県・京都府の環境保全等の市民活動団体の活動を支える役割を果たしている。民間の助成金規模としては滋賀県では突出している。さらなる制度のPRに加えて、この助成金そのものの価値を伝えることが必要となっている。助成金事務局として講座や相談会、個別コンサルティング、訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開、交流会の企画運営などにも対応し、団体との関係構築、団体の情報収集、団体の組織運営サポートなどにも積極的に取り組んだ。

「できるコトづくり制度」はコープしがが主宰し、さまざまな「想い」や「願い」を持った個人や団体が新たな一歩を踏み出すための学習の場の提供と、それらを実現させるために必要な資金の助成の二本立てとなっている。2019年度は、講座の開催、採択された団体との関係構築・情報収集・相談対応・活動取材とレポートの作成、助成金の募集・相談会を行ってきた。2020年度活動の応募受付は行ったが、新型コロナウイルス

ルス感染症の影響で審査会を 2019 年度内に実施することはできなかつたため、これは次年度に持ち越すこととなった。

「まちづくりスポット大津」は、大和リースが全国で展開している地域交流拠点で、地域課題の解決につながる活動を支援することや多様なセクターのつながりをつくるなどを運営の基本とし、2019 年 11 月 29 日にオープンした。ハッシュタグ大津京の運営を受託するとともに各種事業を展開した。年度末は新型コロナウイルス感染拡大防止のために事業を縮小せざるを得なかつた。2020 年度についても状況を見ながら運営していく必要がある。

災害ボランティアコーディネーター事業の中では、前述の活動のほか、近畿ろうきんの NPO パートナーシップ制度を使って、しが NPO センターが事務局を担っている「災害支援市民ネットワークしが」の研究会と災害ボランティアコーディネーター実践講座を開催した。

1 市民活動・NPO支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業

(1) 情報提供

ホームページ、フェイスブックなどで、NPO 支援のための情報や NPO コラムを発信した。
会員に向けては、メーリングリストなどで情報提供を行った。

(2) 相談・コンサルティング

① 相談業務

相談業務は有料相談件数は少なく委託業務内での相談対応が多いが、それらを通して活動団体の課題が把握でき、今後の事業展開に向けての提案をすることもある。新型コロナウイルス感染症拡大防止策により、団体の活動、組織運営等が制約を受けている状況には、かなり厳しいものがあり、2020 年度にも大きく影響を受けると思われるため、今後も情報収集に努め、適切に対応する必要がある。

有料相談

1 時間当たり 3,000 円（税別、スタッフが出向く場合は交通費別途）

相談件数 2 件

- ・ 法人の解散について
- ・ 法人化について
- ・ スタッフの手当を税務署に申告するかどうかについて

委託業務等内での相談対応

相談件数 76 件

- ・ 助成金の応募について
- ・ 会計処理について
- ・ 団体の共同代表について

(3) まちづくりサロン

「新書 de 読書会」

2019 年度も毎月第 3 月曜日（祝日の場合は前後で設定）で定例開催した。定期的で開催していることが認知されるようになり、毎回のように参加してくれる方も出てきた。今後も多様なテーマや多彩な話題提供者による読書会を展開していきたい。

① 2019 年 4 月 22 日（月） 19 : 00 ~ 20 : 30

課題本：人が死なない防災 著者：片田敏孝 出版：集英社新書

話題提供者：井岡仁志

② 2019 年 5 月 20 日（月） 19 : 00 ~ 20 : 30

課題本：人間の経済 著者：宇沢弘文 出版：新潮新書

③ 2019 年 6 月 17 日（月） 19 : 00 ~ 20 : 30

課題本：データの罠～世論はこうして作られる 著者：田村 秀 出版：集英社新書

話題提供者：西川実佐子

④ 2019 年 7 月 22 日（月）

課題本：日本が売られる 著者：堤 未果 出版：幻冬舎新書

- ⑤2019年8月19日(月) 19:00~20:30
 課題本：移民クライシス 著者：出井康博 出版：角川新書
- ⑥2019年9月9日(月) 19:00~20:30
 課題本：地方議会を再生する 著者：相川俊英 出版：集英社新書
- ⑦2019年10月21日(月) 19:00~20:30
 課題本：万葉集の詩性 著者：中西進ほか 出版：角川新書
 話題提供者：平井育恵
- ⑧2019年11月18日(月) 19:00~20:30
 課題本：平成経済 衰退の本質 著者：金子勝 出版：岩波新書
 話題提供者：柚木 延
- ⑨2019年12月16日(月) 19:00~20:30
 課題本：日本の近代とは何であったか 著者：三谷太郎 出版：岩波新書
- ⑩2020年1月20日(月) 19:00~20:30
 課題本：未来への大分岐—資本主義の終わりか、人間の終焉か？
 編者：斎藤幸平 出版：集英社新
- ⑪2020年2月17日(月) 19:00~20:30
 課題本：平成時代 著者：吉見俊哉 出版：岩波新書
- ⑫2020年3月16日(月) 19:00~20:30
 課題本：朝鮮人強制連行 著者：外村大 出版：岩波新書

(4) NPO人育ちプロジェクト

組織運営で必要とされる「ひと・もの・かね」のうち、人材の確保や育成は喫緊の課題となっている。こうした「ひと」という課題の解決のために、NPO若人エンパワープロジェクトを2014年度から計2回(1期は2年)実施してきた。2019年度は対象を広げてのリニューアル実施となったNPO人育ちプロジェクトの2年度目となり、各自、組織の基盤強化につながる事業企画や組織運営見直しの提案などをまとめた。しがNPOセンターのスタッフがメンターとして寄り添いながら課題に取り組み、報告会を開催した。報告会ではそれぞれの取り組みについて発表するとともに、このプロジェクトに参加した成果や今後の活動に向けた思いなどが語られた。団体の代表者からは、プロジェクトへの参加により若いスタッフが成長したことがよくわかった、後を任せられるという気持ちになったなどの言葉があった。

成果報告会に併せて、講演会を開催した。

講演テーマ：NPOで働くことの意味

講師：永井 美佳 さん 大阪ボランティア協会

2020年1月18日(土)

スタート時はメンバー10名、組織内での異動や転職または諸事情によりから4名へと少なくなったが、成果は大きかった。

また、これらの成果を取りまとめたA4・4ページの報告書を作成して、関係者等へ配布した。

今後も人材育成に何らかの働きかけをしていきたい。

<実施内容>

月 日	種 別	内 容	講 師
4/9 (火)	講義	NPOのリーダーシップ	井口 貢 (同志社大学政策学部)
4/25 (木)	講義	構想力と活動曼荼羅図の描き方	北川 憲司 (滋賀地方自治研究センター)
5/16 (木)	ワーク	事業企画ワーク 個別面談	仲野 優子 (しがNPOセンター)
6/5 (水)	講座	効果的な発信 チラシを作ろう	森下 瑠美 (まちづくりネット東近江)
6/27 (木)	NPO 訪問	NPO 子どもネットワークセンター天気村 コミュニティサロンわくわく	山田 貴子・辻 充子(天気村) 石本 恵津子(わくわく)
7/18 (木)	講義・ワーク	日々の会計・個別ワーク	西川 実佐子 (しがNPOセンター)
8/7 (水)	講義・ワーク	文章の書き方・個別ワーク	阿部 圭宏 (しがNPOセンター)
8/29 (木)	講義	ボランティア・マネジメント	梅田 純平 (大阪ボランティア協会)
9/20 (金)	講義・ワーク	パワーポイントの作成・個別ワーク	仲野 優子 (しがNPOセンター)
10/18 (金)	NPO 訪問	NPO 法人ひだまり NPO 法人わっか	永田かおり・中川千絵 (ひだまり) 振角大祐 (わっか)
11/15 (金)	ワーク	報告会に向けた作業・中間報告	
12/13 (火)	ワーク	報告会に向けた作業+個別相談	
1/9 (木)	ワーク	報告会に向けた作業+個別相談	
1/18 (土)	報告会	成果報告会・講演会	永井 美佳 (大阪ボランティア協会)

<受講生の事業企画>

所 属 団 体	氏 名	事 業 名
認定NPO法人 くさつ未来プロジェクト	草川 愛	助成金申請にチャレンジ
らんぷ・まちづくりスポット大津	馬場 環	“ハッシュタグオープン記念トークセッション”の企画 で活かした「人育ち講座」での学び
NPO法人 さんまクラブ	廣田 夏実	さんまクラブの今後を考える～財務体制を見直す～
認定NPO法人 つどい	片岡 愛子	あいのたにロータスステーション喫茶企画

2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業

(1) 情報提供

地域コミュニティ、特にまちづくり協議会に対する中間支援に必要なメニューをとりまとめ、今後の情報発信のコンテンツとして使えるように整理した。相談時など必要に応じて情報を提供しているが、サイトなどでの発信方法は検討中である。

(2) 相談・コンサルティング

① 大津市まちづくり協議会に関する意見交換会

大津市では、まちづくり協議会の設立が加速してきたので、まちづくりスポット大津を窓口として相談に対応した。また、新しくできるまちづくり協議会をパネラーにした意見交換会の企画アドバイスや当日の進行・ファシリテートを行った。

2020年2月16日 大津市役所

内容：先行学区の各まちづくり協議会、または準備会からの事例発表

和邇学区 滋賀学区 山中比叡平学区 藤尾学区 長等学区 平野学区

意見交換（一部、バズセッション）

参加者：107名

対象：大津市各学区のまち協設立準備会・自治連合会などの役員、大津市職員・議員など

パネラーからは、地域課題にマッチした先進的な取り組みが聴けた。大津市は自治会加入率が60%を切ったが、地域を支える人材は抱負だと感じた。参加者の関心が強く、準備した資料が足らなくなり増刷をおこなった。パネラーに対する取り組み内容への質問だけでなく、市に対する意見では批判も出された。まち協設立の説明会は各地域ですでに開催されているが、まだまだ理解されていないのではないかと感じた。

② 草津市笠縫学区まちづくり計画策定業務に関連する相談対応

草津市では、学区まちづくり計画策定支援業務の際に学区防災計画や地域再生計画（地域版）に関連した相談があった。農村地域が絡む地域再生計画地域版作成については、市の担当課と協議し、基本データやワークショップの結果などを共有した。バスルート、医療、福祉、商業施設など、2つの計画で補強し合って進められるといい。学区防災計画は避難経路の確認など自治会ベースの内容に留まっていたため、まち協として学区全体の役割分担や避難所の運営などを次のステージとして、「学区防災計画パート②」として検討することを提案し資料を提示した。

3 協働推進

(1) 行政との協働

①草津市・草津市コミュニティ事業団 まちづくり相談窓口および協働コーディネーター業務（受託事業）

草津市では協働のまちづくり条例の改訂、市民総合交流センターの建設など、施策の過渡期となっていたため、まちづくり協議会・市民公益活動団体の動向を見据えながら、協働のまちづくり推進のための環境を整備していくために次の業務を行った。

草津市コミュニティ事業団は、「協働のまちづくり条例」において中間支援組織として位置づけられるため、協働コーディネーターの専門性を生かして、相談、まち協活動支援ガイドの作成、地域まちづくり計画の改訂の支援、地域カルテの作成などを行った。

i まちづくり相談・協働コーディネーターの配置

協働のまちづくりを推進するために市民公益活動団体の事業運営などの各種相談対応を行った。内容については、ソーシャルビジネス系の相談が目立った。活動団体の年齢層が下がり、多様な手法での展開に対応するには日々スキルアップが必要だと感じた。

ii 草津市まちづくり協働課へのアドバイス

協働のまちづくり推進計画進捗管理、2次計画策定への対応などの事前・事後の相談対応を行った。
(仮)市民総合交流センターの立ち上げや立ち上げ後の管理などについての相談を行った。

iii まちづくり協議会ガイドブック冊子の作成発行

2015年以降、まちづくり協議会の組織及び事業運営の参考教材として、契約、経理、労務等のハンドブック（加除式）を作成してきた。2018年度で一旦作成を終了したものの、2019年度は内容の加筆修正、レイアウト変更を経て冊子を再作成し、各まちづくり協議会と市に配布した。基本から解説しているため、より手軽に手にとって活用されるとありがたい。

iv 笠縫学区まちづくり協議会 まちづくり計画見直し支援業務

2020年4月に現計画の見直しを予定している笠縫学区まちづくり協議会の「まちづくり計画」作成にかかる助言、委員会の運営支援、ワークショップの意見のとりまとめ、計画作成のための資料提供等の支援などを行った。また地域カルテ作成のためのデータ収集、グラフやマップの作成を行った。最終的には編集も行ったが、これをモデルとして事業団が他地域の支援を継続できることが望ましい。この業務は最終年度となるため、計画づくりと地域カルテの作成マニュアルを追加提出した。

(2) 企業・団体との協働

①平和堂財団 環境保全活動助成事業「夏原グラント」（受託事業）

2011年度の助成金創設から2019年度は9年目を数えることとなった。一般助成に加えステップアップ助成やファーストステップ助成といった新たな枠組みを創設して、多くの団体に夏原グラント助成金を活用して活動を充実してもらえるようにしてきた。また、各団体への丁寧な相談対応やヒアリングによる活動状況の把握などが、運営をスムーズに進められる要因となっている。しかし、応募数は減少傾向にあり、新たな工夫が必要となっている。

事業内容としては、昨年度同様、募集・選考会運営、実施支援、団体からの相談対応、市民環境講座の開催、訪問による活動レポートの作成とホームページサイトでの情報発信、報告書の作成などを行った。4年ぶりの交流会を開催したほか、2019年度新たに広報のためのポスター作成と助成金終了後団体へのその

後についてのヒアリングに取り組んだ。

i 応募受付および選考会

・一般助成1年目	14 団体	助成金総額	4,250,000 円
・一般助成2年目	13 団体	助成金総額	4,140,000 円
・一般助成3年目	13 団体	助成金総額	4,750,000 円
・ステップアップ助成	2 団体	助成金総額	1,000,000 円
・ファーストステップ助成1年目	11 団体	助成金総額	1,100,000 円
・ファーストステップ助成2年目	6 団体	助成金総額	600,000 円
計	59 団体		15,840,000 円

選考会は一般1年目1次選考のみ非公開の書類選考、一般1年目2次・一般2年目は公開プレゼンテーション&選考会、一般3年目とステップアップ助成については、選考会で採否を決定した。

ファーストステップ助成は1年目・2年目ともに、書類確認の上、採否を決定した。

2019年度の助成金対象団体数と助成総額は以下のとおりである。

<一般助成1年目>

団体名	事業名	助成金額
徳山環境保全会	彼岸花の復活による堤防環境保全と地域づくり	200,000
滝区ササユリの里づくり委員会	滝区ササユリの咲きほこる里づくり	300,000
京都桑田村	平成31年度桑木クヌギ植え付け事業	400,000
虎御前山古墳と中世城郭保全顕彰会	虎御前山の里山保全・整備活動	250,000
森の風音	都市公園で育むナチュラル・ガーデンとナチュラル・キンダーガーデン	350,000
秀次家臣団屋敷跡竹林を守る会	八幡山城 豊臣秀次家臣団屋敷跡の竹林整備と市民が親しめる環境づくり	250,000
ほっこりおせんどさん山里の会	小谷山・山田山森林整備事業	350,000
中世木ビジョン委員会	中世木の里山・棚田を守るプロジェクト	350,000
猪子山・地獄越え周辺の山道を良くする会	猪子山・地獄越え山道整備事業	200,000
八幡たけくらぶ	放置竹林整備事業	400,000
つどい	総出事業 フリースペースつどい	350,000
滋賀植物同好会	湖西のハマエンドウの保全	200,000
滋賀のオオサンショウウオを守る会	滋賀県のオオサンショウウオに関する調査・研究	400,000
西山自然保護ネットワーク	小塩山のコナラ林の若返りを進め、カタクリ・ギフチョウ保全と薪資源の活用を図る	250,000

<一般助成2年目>

団体名	事業名	助成金額
重利の山を守る会	里山の保全 地域のコミュニティづくり	250,000
みんなの家EH	遊休農地活用地場産材による甘味防災保存食事業	400,000

ヨシネットワーク	「ヨシ群落・水郷・琵琶湖」の魅力を発信・案内するしくみづくり	300,000
山中比叡平里山倶楽部	野鳥の気持ちを知るプラットフォームづくり（環境教育実践のための野鳥観察施設づくりと野鳥観察会実施）	300,000
志津南環境美化ボランティアの会	緑の手入れを通じての“高齢者支援対策”と“空き家対策”	400,000
滋賀県苗木ネットワーク	近江の苗木ニューブーム推進事業～全国植樹祭を成功させよう～	400,000
西の湖ヨシ灯り展実行委員会	西の湖ヨシ灯り展	240,000
特定非営利活動法人甲賀の環境・里山元気会	里山の整備保全と地域との交流活動（自然豊かな里山で大人と子供達が一緒に楽しめる音楽会の開催）	350,000
自然住宅情報ひろば	久多の山と遊ぶビーバーの会	350,000
認定特定非営利活動法人e ネットびわ湖高島	ドローン空撮による琵琶湖周辺環境のモニター研究	300,000
こそだてママnet☆	鹿背山おやこの森のkichi	300,000
荒神山ファンクラブ	荒神山ファンクラブプロジェクト	250,000
伊吹くらしのやくそう倶楽部	耕作放棄圃田の再生と伊吹の薬草復活プロジェクト	300,000

<一般助成3年目>

団体名	事業名	助成金額
番場の歴史を知り明日を考える会	古道再生による里山の保全	400,000
森のようちえん どんご園	森のようちえん おやこの会	400,000
特定非営利活動法人加茂女	竹と筍の魅力発信基地の創設	500,000
浜分環境クラブ	休耕農地を活用し、地域に自生し絶滅の恐れのある花菖蒲・杜若・メダカ・タガメ等、水生動植物の保護育成園の整備事業	400,000
認定特定非営利活動法人ブルーシー阿蘇	太陽熱回収用へどろヒートポンプの開発	250,000
かぶと山を守る会	里山の保全と遊歩道の維持管理	300,000
放鳥's	野性傷病鳥獣の救護追跡事業	500,000
特定非営利活動法人芦生自然学校	京都・美山千年の川プロジェクト～命溢れる川づくり～	400,000
NPO 法人菜の花プロジェクトネットワーク	琵琶湖とともに～沖島『エコの島・安心して暮らせる島』に～	350,000
日本熊森協会滋賀県支部	スギ・ヒノキの人工林から命を育む自然の森へ琵琶湖水源の森づくりプロジェクト	300,000
認定特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド	市民共同発電所「おひさま発電所」設置施設と共に進める環境学習	350,000
甲賀木の駅プロジェクト運営委員会	甲賀木の駅プロジェクト「森林を愛する人を増やそう計画！！」	400,000
特定非営利活動法人やましろ里山の会	里山農園周辺環境整備事業	200,000

<ステップアップ助成>

	団 体 名	事 業 名	助成金額
1 年目	特定非営利活動法人 里山保全活動団体 遊林会	R e 梵大作戦 ～梵釈寺から始まる里山の再生～	500,000
2 年目	一般社団法人 比良里山クラブ	中山間地域赤シソ栽培ネットワーク“Team Hira Perilla” 推進事業	500,000

<ファーストステップ1年目>

団 体 名	事 業 名	助成金額
坂本菊会	コシアブラ研究会	100,000
ながみね	地域の環境整備《緑化活動・清掃活動》の推進	100,000
瓜生川桜の花路を楽しむ会	瓜生川桜並木造成事業	100,000
Mom's fun	西の湖であそぼう！	100,000
能登川地区まちづくり協議会	ふるさと散歩道事業 <魅惑のパワースポット 猪子山 に巨石の神々を訪ねる 岩神山のおはなし>	100,000
チームむべなるかな	琵琶湖水鳥観察会とむべなるかな里山探索会	100,000
沖島里山保全の会	沖島のやまみち整備事業	100,000
こにゃん木の駅プロジェクト準備委員会	湖南市産バイオマス燃料製造プロジェクト	100,000
ゆめむら	農作業をとおして、家族力と地域力で「子育て」を学ぼう！	100,000
西の湖あそび隊	西の湖おはなしあそび	100,000
オランダ堰堤および周辺環境を守る会	オランダ堰堤および周辺地域の清掃活動、草刈り事業および川ざらい事業	100,000

<ファーストステップ2年目>

団 体 名	事 業 名	助成金額
桂坂野鳥遊園子ども自然観察会	子ども自然観察会	100,000
特定非営利活動法人 自然と歴史ロマンの会	西野山丘陵の里山道と歴史に触れる環境保全に関する実践活動	100,000
志津南『芝桜プロジェクト』	草津市志津南地区調整池等の草地整備	100,000
棚田・里山・古代米・鮎プロジェクト	棚田・里山・古代米・鮎プロジェクト	100,000
南丹たんぼ組	棚田の復活と除草剤を使わない米づくりの普及による環境保全	100,000
Tread	里山の記憶にある生物相の環境調査	100,000

ii 贈呈式

一般助成・ステップアップ団体を対象に、平和堂財団の理事長より目録を贈呈する式典を開催した。贈呈後には、2018年度の活動の中から、3団体による活動報告を行った。贈呈式終了後は、交流会として立食形式でのパーティの場を持ち、平和堂財団、選考委員、助成団体、事務局が一堂に介して交

流を深めた。この場を機会に、新たな連携が育まれることとなった、

2019年4月20日（土）10:00～14:00

クサツエストピアホテル 瑞祥の間 参加：42団体71名

iii 交流会

それぞれの団体が助成金により活動を展開することはもちろんだが、夏原グラントの助成を機に他団体と交流することで、情報交換や連携が進むこともひとつの成果となっている。2019年度は、現在助成を受けている団体だけではなく、過去に助成を受けていた団体にも呼びかけて交流会を開催した。選考委員によるリレートークに続き、テーマごとにグループに分かれての意見交換では、しがNPOセンターのスタッフがテーブルごとに進行役を務めた。課題を共有し、活動のヒントやアイデアについて多くの意見を聞ける機会ともなり、参加者の満足度も高かった。

2019年7月27日（土）13:15～16:45

滋賀ビル 比良の間 参加：39団体57名

iv 市民環境講座

環境保全活動を進めていくための専門的な知識や組織運営について学ぶ場として市民環境講座を開催した。選考委員に講師を依頼した。

一般助成1年目とファーストステップ1年目で夏原グラントの助成を初めて受ける団体は出席を必須とした。

第1回 2019年5月12日 13:30～15:30

滋賀県立県民交流センター 207会議室 参加者：61名

「楽しく意味のある環境活動の展開」

講師：仁連孝昭さん 滋賀県立大学名誉教授

第2回 2019年6月30日 13:30～15:30

大津市ふれあいプラザ 大会議室 参加者：50名

「効果的な活動のための団体運営のヒント」

講師：内田香奈さん きょうとNPOセンター

v オリエンテーション

ファーストステップ助成は書類選考であり贈呈式に参加しないことから、団体と直接顔を合わせる機会がない。そこで活動の注意点や今後の取り組み方などについてのオリエンテーションを第1回市民環境講座の終了後に実施した。活動にあたっての注意点に加え、各団体からの団体紹介・活動紹介を行い、事務局との関係構築と団体間の情報交換の場となった。

2019年5月12日（土）15:30～16:30

滋賀県立県民交流センター 207会議室 参加：11団体

vi ファーストステップ団体ヒアリング

ファーストステップ助成では、次年度または次々年度に一般助成へ応募することとなっている。4月からの活動状況を確認しながら、次年度どのように対応していくかについて個別に相談するヒアリングを、1年目団体と2年目団体に分けて、全団体対象に実施した。

1年目団体：2019年9月15日（日）13:30～16:30

大津市市民活動センター 中会議室

2年目団体：2019年11月9日（土）10:00～12:00

大津市市民活動センター 大会議室

vii ステップアップ講座

一般助成は3年までの継続となっているが、組織基盤強化に取り組む団体に対してステップアップ助成の枠組みがある。ステップアップ助成では環境保全活動と組織基盤強化を同時に取り組むことになるが、この組織基盤強化策をどのように構築するか、それを応募書類にどのように書きこむかなどについて説明し事業企画の相談に応じるステップアップ講座を開催した。対象となる一般助成3年目団体に意向を確認して実施した。

2019年11月9日(土) 13:30~16:00

津市市民活動センター 大会議室 参加:8団体

viii 活動報告書

事業報告書として、A4サイズで1000部作成。1事業あたりA4サイズの1/3スペースで、一般助成採択団体のすべての事業を掲載している。広報ツールやとしてだけ応募を検討している団体などへの情報提供用として積極的に配布した。

ix ポスターの作成

募集については、今までは募集要項の送付やホームページサイトへの掲載を行ってきた。応募要項という直接的ではないが、活動報告書や店舗用冊子(活動報告書の内容をコンパクトにまとめたもの)などを配布するなど、これらは夏原グラント認知度アップに貢献してきている。さらなる認知度を高めようと2019年度はポスターを作成した。中間支援団体、環境関連施設、大学等へ配布した。

x 説明会・事前相談会

夏原グラントへの応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後には事前相談会を設定し応募にかかる質問や相談に応じた。ファーストステップの団体には、積極的に参加を呼びかけた。

・草津会場	2019年11月26日	参加:1団体
・近江八幡会場	2019年12月1日	参加:4団体
・京都会場	2019年12月2日	参加:5団体
・大津会場	2019年12月7日	参加:2団体
・亀岡会場	2019年12月8日	参加:6団体
・草津会場	2019年12月20日	参加:4団体

xi 2020年度助成にかかる準備

2020年度活動の対象となる助成事業の応募から選考にかかる一連の業務について、2019年度内に準備を進めた。xの説明会・事前相談会も、その一環である。

具体的には要項作成、説明会・事前相談会、応募受付、団体ヒアリング、選考会・公開プレゼンテーションなどである。

選考会・公開プレゼンテーションの日程は次の通り。

一般助成1年目

1次選考(書類選考):2020年2月25日(火)18:00~20:00

2次選考(プレゼンテーション・選考会):2020年3月20日(祝・金)9:30~16:30

一般助成2年目

プレゼンテーション・選考会:2020年3月15日(日)9:30~17:00

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、プレゼンテーションは公開せず団体の集合時間を個別に設定して実施した。

団体ヒアリング日程は次の通り。

一般助成3年目団体対象：2020年2月21日（金）10:00～17:00

2020年2月22日（土）10:00～17:00

②生活協同組合コープしが できるコトづくり制度（受託事業）

一人ひとりが持つ「想い」や「願い」が結びつき、誰もが安心して暮らし続けることができる地域社会を実現していくための支援として創設された「できるコトづくり制度」の運営事務局を引き続き担った。

事業内容は、2018年度に実施した講座の企画・開催、助成金の募集・審査会運営、説明会、団体からの相談対応などに加え、活動訪問とレポート作成・専用ホームページサイトへの公開、ホームページサイトの運営などである。昨年度の成果や課題を踏まえ、内容や開催時期・場所などを工夫して行った。2020年度の応募に向けた取り組みとしては、継続して応募する団体への対応も行った。

i 2019年度採択団体

・活動助成 3団体 助成金総額 900,000円

・はじめて助成 5団体 助成金総額 450,000円

計 8団体 1,350,000円

活動助成は事前審査と公開プレゼンテーション、はじめて助成は書類選考により、審査会にて採択団体を決定した。

2019年度の助成金対象団体数と助成総額は以下のとおりである。

<活動助成>

団体名	事業名	助成額
NORA	NORA(ノーラ)	300,000
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	山門水源の森保全活動環境改善事業	300,000
子育てネットワーク志賀うりぼう	一時預かり保育スタートアップ事業	300,000

<はじめて助成>

団体名	事業名	助成額
Mom's fun	図書館と本でつながる子育て支援事業	50,000
おてんとさん・八日市おかえり食堂	八日市おかえり食堂（子ども食堂）	100,000
放課後スペースほっこりや	放課後スペースほっこりや	100,000
フードバンクびわ湖	フードボックス設置事業	100,000
菌（くさびら）LABO	菌を通じたツナガリづくりで、文化の継承や生活文化の質を高める会	100,000

ii 講座

「こんな活動があれば暮らしやすいのに」「困っている人をみんなで支えたい」「自分や仲間の力を地域で活かしたい」など活動への関心を寄せている方々を対象に、社会の現状と課題や活動への取り組み方法などについて考える場として開催した。

- 第1回：2019年9月16日(祝・月) 湖北・湖東エリア コープしが彦根センター 4名参加
 2019年9月23日(祝・月) 湖南・湖西エリア コープしが野洲本部 4名参加
 「今、私たちの周りで何が起きている? ~身近な問題に目を向けてみよう~」
- 第2回：2019年10月12日(土) 湖北・湖東エリア コープしが彦根センター 台風で中止
 2019年10月14日(祝・土) 湖南・湖西エリア コープしが野洲本部 6名参加
 「滋賀でこんな取り組みが! ~先輩たちの活動を学ぼう~」
- 第3回：2019年10月19日(土) 湖北・湖東エリア コープしが彦根センター 3名参加
 2019年10月20日(日) 湖南・湖西エリア コープしが野洲本部 4名参加
 「『やってみよう』から『やれる』へ!」

それぞれの回でアンケートでは「身近で自分にできることがあるか考えていきたい」「任意団体から法人化など知らない話が多く、勉強になった」「計画づくりでは具体的なことが必要だとわかった」などの感想が寄せられた。

iii 活動訪問

採択された団体を訪問し、活動について取材を行った。それをまとめ、専用ホームページサイトに掲載した。

iv 説明会・相談会

応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後の相談会では応募にかかる質問や相談に応じた。第1回の相談会は講座終了後に行った。また、個別での相談にも応じた。

- 第1回：2019年11月16日(土) コープしが彦根センター
 説明会参加者数3名 相談会参加団体数4団体
- 第2回：2019年11月17日(日) コープしが本部
 説明会参加者数8名 相談会参加団体数6団体
- 第3回：2019年11月21日(木) コープしが彦根センター
 説明会参加者数9名 相談会参加団体数8団体
- 第4回：2019年12月22日(日) コープしが野洲本部
 説明会参加者数20名 相談会参加団体数16団体

・個別相談対応

団体名・個人名がわかる相談 12件

団体名・個人名がわからない相談は記録していないが15件程度受付

v 専用ホームページサイトの運営

制度の創設にあわせ、できるコトづくり制度専用ホームページサイトを立ち上げたが、2010年度に引き続き講座や助成金情報を掲載して広報を行った。2019年度は、取材レポートとよくある質問を新たなコーナーとして立ち上げた。

vi 2020年度助成にかかる準備

2020年度活動の対象となる応募から審査について、2019年度内に準備を進めた。iiiの説明会・相談会も、その一環である。

具体的には要項作成、説明会・相談会、応募受付、審査会・プレゼンテーションなどである。

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、プレゼンテーションは実施せず、書類審査で採択を決めることとなった。審査会開催は2020年4月12日(日)となり、Web会議アプリケーションを

利用したオンラインで実施することとなった。

③大和リース まちづくりスポット

大和リース（株）が商業施設を建設・運営する「ランチ大津京」の一角に、全国で展開している「まちづくりスポット」が併設されることとなり、しがNPOセンターが運営を担うために2018年度から準備を始めた。2019年度は、4月からオープンに向けて取り組み11月29日（金）のオープンを迎えた。オープン前の準備では、大和リースと施設の運営方法・環境整備・設備備品・広報についてなど様々な協議を行った。またオープン前からの周知が必要であることからプレイベントの企画・実施、またそれに繋げていく事業企画・運営を行った。ハッシュタグ大津京／まちづくりスポット大津の運営体制を整えるために、新たにスタッフを雇用した。大和リースの意向で、2020年度内には新法人を立ち上げ2021年度には運営を移行していくことになっている。新法人立ち上げは、しがNPOセンターの責任で取り組むこととなるが、運営、事業やスタッフ体制などがスムーズに引き継げるように工夫する必要がある。

事前準備での協議で、ミッションを「ほっとけないを良質なおせっかいで応援する『まちづくりスポット大津』」とし具体的な取り組みを進めることとなった。

i プレ講座「私のできることの見つけ方」

まちづくりスポット大津オープン前の広報という意味からも、「やりたい」「力を活かしたい」という方々に一歩を踏み出してもらえるような内容で、連続講座として開催した。

第1回：2019年9月13日（金） 10：30～12：30 びわ湖大津館 215・216 参加者 23名

「活動のはじめかた」

ゲスト：菅谷寛子さん（おてんとさん代表）

第2回：2019年10月3日（木） 10：30～12：30 びわ湖大津館 215・216 参加者 23名

「生き方が軸になる活動の広げかた」

ゲスト：藤岡いづみさん（Vegemate 代表/ 野菜ソムリエプロ）

第3回：2019年11月1日（金） 10：30～12：30 びわ湖大津館 215・216 参加者 18名

「地域で応援される活動の広げかた」

ゲスト：宮本麻里さん（子育て応援カフェ LOCO 代表）

第4回：2019年12月5日（木） 10：30～12：30 ハッシュタグ大津京 参加者 16名

「私のアイデアおひろめ会」

どの回も話を聞く座学だけではなくワークショップを組み合わせ、自分のことを考えたり振り返ったりする時間にもなった。またグループに分かれての発表や意見交換などが刺激になったようだ。ふりかえりシートでは、「交流できる時間が十分あってよかった」「地域とどうつながっていくのか今後の課題として考える時間になった」「ここでの気づきがどうなるのか考えていきたい」などの感想が寄せられた。

ii まちスポスタートアップ@ハッシュタグ

ハッシュタグ大津京／まちづくりスポット大津の存在を広く知ってもらうために、オープン時に実施。商業施設を訪れる多様な層の方々に関心を持ってもらいつつ、今後の取り組みがイメージできるような「学び」と「体験」ができる機会を提供した。第1回ではオープンした施設を知ってもらうための見学会も行った。

第1回：2019年11月29日（金） 13：30～16：00 参加者 26名

ハッシュタグ見学・オープン記念トークセッション

トークセッション「自分の生き方と合わせたキャリア創り」

ゲスト：押栗泰代さん（認定 NPO 法人マイママ・セラピー代表理事）

浅井一美さん（あさいこどもクリニック看護師・ママパスおおつ編集長）

第 2 回：2019 年 11 月 30 日（土） ①13：00～14：30 ②15：30～17：00 参加者 14 名

「とっておきのコーヒー講座」

講師：日下部伸行さん（春風珈琲）

第 3 回：2019 年 12 月 1 日（日） 10：00～16：00 参加者 113 名

「きぐみのつみき クミノで遊ぼう！」 お話タイム①11：00～②14：00～

実施者：クミノ工房 井上慎也さん

予約または事前に知って参加された方だけではなく、当日チラシや広告を見て参加された方も多く、商業施設ならではの賑わいであった。今後、こういった特徴を活かした事業の企画も必要である。

iii 大和リース・ランチ大津京との共催・連携事業

a 全国まちスポキャラバン「遊べる絵本展」

2019 年 12 月 15 日（日） 11：00～16：00 参加者 58 名

絵本の読み聞かせとクラフトワークショップ

b 葉っぱをつくってスタンプ GET 「ランチの樹をつくろう！」

2020 年 3 月 20 日（金）～28 日（土） 参加者 58 名

ランチ大津京内で実施の「スタンプラリー」に協力

どちらも飛び込み参加の方が多く、イベントを楽しんでもらうことができた。大和リース主催ではあるが、まちづくりスポット大津ならではの視点から企画して実施することで、認知度を上げることができる。今後は大和リースだけではなく、入居店舗との関係性も築いていきたい。

iv ホームページサイトの構築・情報発信

ランチ大津京、ハッシュタグ大津京／まちづくりスポット大津のオープンに合わせてホームページサイトが公開できるように準備を進めた。内容の検討を始めロゴの選定、ランチ大津京・ハッシュタグ大津京との連携、画像の収集などに取り組んだ。公開後は、イベントや日常の様子などの発信に積極的にとりくんだ。情報発信については、ホームページサイトだけではなく、SNS（Facebook、Twitter、Instagram、LINE など）でも積極的に行った。

v ハッシュタグ大津京 シェアスペースの利用対応

ハッシュタグ大津京・シェアスペースは、ホームページサイトからの利用申し込みとなっている。ホームページサイト上での初回の利用登録と利用申込の対応、当日利用者への案内と管理等を行った。スター時に比べて利用が増えてきていたが、3 月以降は新型コロナウイルス感染によってキャンセルが多かった。

vi ハッシュタグ大津京 シェアオフィスの利用促進

ハッシュタグ大津京のシェアオフィスは 10 ブースがあるが、まずは 1 件目の契約を目指し、いろいろな企画で広報・利用促進にむけて取り組んだ。

a 日常業務で、まちづくりスポット大津を訪れた方にご案内

b まちスポスタートアップ@ハッシュタグのイベントで見学会

c シェアオフィス体験 Week

第 1 回：2 月 10 日（月）～2 月 15 日（土） 第 2 回：3 月 9 日（月）～3 月 14 日（土）

vii 近江神宮外苑公園グラントの利用受付

大和リースが近江神宮外苑公園グラントの指定管理者となっていることから、管理業務のうち利用受付をまちづくりスポット大津が担った。具体的には、電話での質問等への対応、インターネット受付・キャンセルへの対応、利用料金の徴収などである。当初は利用受付時の煩雑さがあったものの、徐々に利用が増えてきている。

(1) コラム発信

2013年6月より、NPOを取り巻く環境や課題、また時々の社会的な問題などについて、HPサイトでコラムとして発信している。2019年度は1か月に1回計12回リリースした。

2019年4月：滋賀県行政の難しさ

5月：大津市の支所統廃合とまちづくりの課題

6月：大学のこれから

7月：新書で読み解く平成時代とは

8月：市民が書くことの意味

9月：隣国と仲良くするには

10月：大津市は大丈夫か！

11月：大規模災害への政府の責任

12月：新たなまちづくりの起点に

2020年1月：ガラパゴス化する日本をどうするか

2月：人口減少社会にどのように対応するか

3月：新型コロナウイルスのNPOへの影響

5 災害ボランティアコーディネート事業

(1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営

① 「災害支援市民ネットワークしが」

県内外での災害時に、災害ボランティアセンター運営支援やコーディネート、独自の情報発信などができることを目指し、2013年度にネットワークを構築し、しがNPOセンターが事務局を担っている。平常時には学習や交流の機会を設けて、スキルアップと加入団体・個人との連携を維持し、新たな連携先の掘り起しを図るとともに、各地で起こる被災地への支援活動も行っている。

会員組織としてはいるが会費は設定せず、オブザーバーなどの参加もある。研究会・セミナー等へは会員外にも声をかけるオープンな形態としている。

過去数年は、災害ボランティアコーディネーター養成講座の修了者のうち希望者が加入することにより個人会員が増加してきたが、団体への広がりがないため団体会員への呼びかけが必要である。現在会員は、団体会員：19団体、個人会員：54人となっている。

総会日時 2019年4月24日(水) 15:00~17:30

開催場所 滋賀県労働福祉セミナー室 参加者：21名

総会終了後、参加者の活動を共有しネットワークの今までを振り返りながら、これからの取り組みについて意見やアイデア出しを行った。

②研究会

2019年度も災害の多い年となり、特に台風による豪雨が各地で大きな被害を引き起こした。多発する災害を見聞きすることも多く関心は高まっているものの、自分事として取り組めるかどうかは今問われている。災害支援市民ネットワークしがでは、より具体的で対象を絞ったテーマを設定して研究会を開催した。それぞれのテーマに対する関心は高く、参加者の満足度も高かった。今まであまりつながりのない層へどのように参加を呼びかけるかなどの働きかけが難しかったが、初めて参加された方などとのネットワークなどの構築も考えていく必要がある。

i 第1回研究会

2019年9月19日(木) 13:30~16:30 参加者数：14人

会場 草津市立まちづくりセンター

「東日本大震災における広域避難者の現状と課題」

講師：NPO和 大塚 茜さん

もともと保育をメインに活動されていて、石巻市でも小規模保育園を運営されている。東日本大震災で広域避難をされている方の支援活動としては、京都以外に、滋賀県内避難者の会が解散してから滋賀の避難者のサポートもされている。滋賀県内の避難者の状況を知ることができてよかった。

ii 第2回研究会

2019年10月16日(水) 13:30~16:30 参加者数：23人

会場 草津市立市民交流プラザ

「マンションにおける防災を考える」

講師：NPO法人しがいち防災研究所 岩佐 卓實さん

南草津マンション防災委員会 江藤沙織さん

マンションは、一般的に耐震性・耐火性・保安性に優れた建物だが、一方で、エレベーター、水道が止まったりするとたちまち生活でいなくなるという面もある。また、コミュニティの希薄化も気になり、その中でどのように防災意識を持つかが問われている。

実際のマンション住民を中心とした新たなコミュニティづくりのヒントももたらされた。

iii 第3回研究会

2019年12月11日(水) 13:30~16:30 参加者数: 19人

会場 ハッシュタグ大津京

「災害時のラジオの役割って？」

講師: FM おおつ 古田 誠さん
エフエム滋賀 糸井 孝実さん

県内ラジオ局6者が滋賀県防災ラジオ協議会を結成して、滋賀で災害が起こった場合に連携してラジオ放送ができるように活動されている。ラジオ離れが進んでいるが、阪神淡路大震災のときの多言語放送、熊本地震のときのコミュニティFMの地域情報発信など、ラジオの役割を再認識できる内容となった。

iv 第4回研究会

2020年3月27日(金) 13:30~16:30 参加者数: 14人

「大型台風 防災・減災を考える」

講師: ローカリズム・ラボ 井岡 仁志さん

毎年、大きな台風が上陸している。2019年は、台風19号が東日本から東北にかけて広く被害をもたらした。長野では県内からのボランティアが非常に多く、5つのサテライトが設置された。ボランティアの移送が大変で、大型ゴミの処理が大変で混乱もあった。軽トラボランティアが発動していた。農業(りんご)ボランティアも長野らしい取り組みだ。

後半は西日本豪雨で被災された広島その後の状況が紹介された。被災者支援は第3フェーズである日常生活への出口づくりだが、ここが今難しい状況であることがデータで示された。

(2) 近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

① 災害支援市民ネットワークしが研究会(再掲)

5-(1)-②の研究会のうち、i-第1回研究会、ii-第2回研究会、iii-第3回研究会を、近畿ろうきんパートナーシップ制度の枠組みで実施した。

近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

近畿ろうきんが2000年度から始めた近畿2府4県内でのNPO・ボランティア活動を促すための制度。

2011年度からは東北地方を中心とした被災地での復興支援活動に力を入れていたものの、年月が経過する中現地支援からは軸足が遠のいていた。しかしながら2016年4月に発生した熊本地震を機に、現地支援の必要性から再度復興支援活動に取り組むこととなった。2018年度からはSDGsに関わり「誰もおいてきぼりにせえへん」をテーマに掲げて事業を進めている。

② 共通企画

近畿2府4県のNPO支援センターと近畿ろうきんが共同で事業に取り組むもの。「居場所づくり活動を進めていくこと」をテーマに、2府4県の支援センターが協力して事業を進めた。各支援センターがモ

デルとなる団体の調査・研究・支援に取り組み、それをフォーラムで発表するという内容である。しが NPO センターは、モデルとなる団体の選定とヒアリング、課題抽出と解決に向けた提案を行った。

i 居場所づくり活動支援

滋賀県では「子ども食堂」を中心としたサロン活動が盛んで、地域コミュニティ組織などが運営するサロン活動も増えてきている。こういった居場所づくり活動はボランティアベースで行われているケースが多く、「支援する」という側面からしが NPO センターが関わることは今までにあまりなかった。そこで今回は、できるコトづくり制度助成金で関係性が築けた「おてんとさん・八日市おかえり食堂」への支援を行うこととした。

ヒアリングを行い、課題の整理と今後解決していくために何をすべきか話し合った。そこで出てきた課題「ボランティアメンバーのネットワークづくりと情報共有」と「拠点整備の展望と事業計画作成」について先進事例の研修を行うこととし、講師を紹介した。団体スタッフ全員で研修に参加することで、今後の運営方法や事業計画を見直すことができ、取り組みについてのアピール方法を学ぶことができたという。また、ボランティアスタッフとの交流が図れ、子ども食堂開催日の運営がスムーズに進むようになったとの報告があった。

ii 「居場所づくりフォーラム in 近畿 居場所づくりの運営団体と支援団体のいい関係」の開催

各府県が取り組んだ居場所支援の成果を発表するフォーラムを開催した。

基調講演と実践報告、グループディスカッション、パネルディスカッションを行った。基調講演では居場所の重要性や全国の事例を学んだ。実践報告では滋賀での取り組みを報告することになり、おてんとさん・八日市おかえり食堂の代表菅谷寛子さんとともに壇上にあがった。参加者のグループディスカッションで出た質問や意見等を集めてのパネルディスカッションでは、課題を整理してコーディネーターや登壇者も交えた活発な意見交換の場となった。

2020年2月15日(土) 13:00~16:00 参加者: 81名

近畿ろうきん本部

講演 清水肇子さん 公益財団法人さわやか福祉財団理事長

実践報告 おてんとさん・八日市おかえり食堂×しが NPO センター

はしっ子えがおサポートぼれぼれ×わかやま NPO センター

NPO 法人インクルひろば×コミュニティ・サポートセンター神戸

今回のテーマ「居場所づくり」は全国的に注目され、その重要性・必要性が語られるようになってきている。進んでいる取り組みも運営方法や具体的な内容が様々で、今後の展開についても多様なバリエーションが想定される。こうした中で、しが NPO センターなどの支援組織がどのように関わられるかについて考えていく必要がある。

(3) 災害ボランティアコーディネーター実践講座

災害支援に関する知識や実務につながるノウハウなどを身につけたいというニーズは高く、何らかの形で学びたいという声が届いていた。そこで、2015年度から3年開催した「災害ボランティアコーディネーター養成講座」のフォローアップ研修として2回目の実践講座を開催した。過去3回の災害ボランティアコーディネーター講座の参加者は100名を超えており、昨年度に引き続きこのメンバーを中心に広く参加を呼びかけた。

2019年8月24日(土) 13:30~17:00 滋賀県立県民交流センター 305

講師: NPO 法人さくらネット 石井布紀子さん

講演タイトル：「つなぐ・つくる・ひらく」

参加者数 38 人

午前は講義、午後はワークショップで実施した。講義ではコミュニティマッチングの必要性を学んだ。これは地域で資材やボランティアをまかない、細かなニーズに対応する手法である。ワークショップでは参加者を居住地や職種などを勘案したグループ分けで行い、2つのワークを行った、ひとつは、地域に密着した災害ボランティアセンターを想定して支援見積もりを作る実習。ふたつ目は、ニーズの優先順位をつけるコーディネートスキルの実習だった。ケースが想定されていて、より具体的で実践的な学びの場となった。参加者からは、今回のような具体的な話を職場や地域でしっかりと進めていくことが重要だという意見があった。災害支援市民ネットワークしがならではネットワークを活かした動きに繋げていくことが望まれる。

(4) 滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会

① 運営協議会会議

日時：2019年6月24日（月）10:00～11:30

場所：滋賀県危機管理センター

② 災害ボランティアセンター機動運営訓練

日時：2019年9月1日（日）7:00～11:00

場所：滋賀県危機管理センター

滋賀県総合防災訓練にあわせて実施

6 ネットワークの構築

(1) 近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

「近畿圏NPO支援センター連絡会議」に出席

2019年6月13日、2019年9月26日、2019年12月5日、2020年3月18日

(2) 中間支援センター意見交換会への参加

県内の中間支援団体で組織する意見交換会に参加した。

①2019年8月9日 「滋賀における市民活動の歴史について」講義（阿部圭宏）

相談業務について意見交換

参加：仲野、北井

②2019年11月24日 「第15回もりやま市民活動屋台村」参加、

各センターの情報交換

参加：幡

③2020年3月10日 ※新型コロナウイルスによる感染症防止のため中止

「市民セクターを展望する～横浜市の事例から～」

吉原明香さん（市民セクターよこはま）、パネルディスカッション

コーディネーター阿部圭宏

④その他

相談内容の統一化についてアンケート調査に協力（内容や件数などを全県下で集計する）

7 会議等の開催

(1) 総会

2019年5月17日（金）19：00～20：00 草津市立まちづくりセンター

(2) 理事会

第33回 2019年5月13日（月）

第34回 2019年7月1日（土）

第35回 2019年10月30日（土）

第36回 2020年1月5日（日）

第37回 2020年3月26日（木）

* 新年理事懇談会 2020年1月5日（土）